

Apiezon T Grease (M&I Apiezon T Grease.)

Edwards 日本、EDWARDS JAPAN LTD.

Chemwatch: 1117819
バージョン番号: 10.1.9.10
安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

Chemwatch 危険有害性警告コード: 1

発行日: 23/07/2021
印刷日: 15/09/2021
L.GHS.JPN.JA

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	Apiezon T Grease (M&I Apiezon T Grease.)
化学物質名	該当しない
同義語	データ無し
化学式	該当しない
他の製品特定手段	データ無し

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	製造者の指示に従い使用すること。
--------------	------------------

供給者の詳細

供給者の会社名称	Edwards 日本、EDWARDS JAPAN LTD.
住所	〒276-8523 千葉県八千代市吉橋1078-1 (販売およびサービス) 276-8523 Japan
電話番号	+81 47 458 8831
FAX番号	データ無し
ホームページ	www.edwardsvacuum.com
e-メール	info@edwardsvacuum.com

緊急連絡電話番号

会社名	CHEMWATCH 緊急時対応
緊急連絡電話番号	+81 50-3204-4966
その他の緊急連絡電話番号	+81 800-080-4344

電話がつながった時のメッセージがご希望の言語でない場合は、06をダイヤルしてください

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

分類 [1]	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B
凡例:	1. Chemwatchによる分類; 2. 日本 NITE GHS 分類データベースによる分類; 3. EC 規則 1272/2008 - 附属書 VIIによる分類

GHSラベル要素

絵表示:	該当しない
注意喚起語	警告

危険有害性情報

H320	眼刺激
------	-----

注意書き: 安全対策

P264	取扱い後は製品が付着した体の部位をよく洗うこと。
------	--------------------------

Apiezon T Grease (M&I Apiezon T Grease.)

注意書き: 応急措置

P305+P351+P338	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337+P313	眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。

注意書き: 保管(貯蔵)

該当しない

注意書き: 廃棄

該当しない

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	%[重量]	名称	官報公示整理番号		ナノフォーム粒子特性
			化審法	安衛法	
8012-95-1.	85-90	ニュートラル潤滑油用基油	-	公表	データ無し
637-12-7	<15	脂肪族モノカルボン酸(C=7〜23)塩(Al, Fe)	2-625	公表	データ無し
凡例: [e] 内分泌かく乱作用をもつと認められている物質					

セクション4 応急措置

必要な応急措置の説明

眼に入った場合	眼に入った場合: ▶ 直ちにきれいな流水で洗浄すること。 ▶ 洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと。 ▶ 速やかに医師の手当てを受けること。痛みが続いたり繰り返す場合は、医師の手当てを受けること。 ▶ 眼に損傷がある場合、コンタクトレンズの取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合: ▶ 直ちに汚染された衣類すべて(履物を含む)を脱がせること。 ▶ 流水で皮膚および毛髪を洗浄すること。必要に応じて石鹸を使用すること。 ▶ 炎症がある場合には、医師の手当を受けること。
吸入した場合	▶ ヒューム、エアゾールまたは燃焼生成物を吸入した場合、汚染区域から退去すること。 ▶ 通常、他の措置を講じる必要はないと考えられている。
飲み込んだ場合	▶ 飲み込んだ場合、無理に吐かせないこと。 ▶ 嘔吐した場合、気道の確保および誤嚥防止のため、患者を前傾あるいは左側臥位にし、可能であれば頭を下にした状態を保つこと。 ▶ 患者の経過観察を行うこと。 ▶ 眠気や意識不明状態などの意識低下がみられる場合、水を与えてはならない。 ▶ 口内を洗い流すために水を与え、その後患者が無理なく飲める量の液体をゆっくりと与えること。 ▶ 医師の診断を受けること。

医師に対する特別な注意事項

- ▶ 長年にわたる継続的および重度の皮膚ばく露は、異性性の皮膚疾患を引き起こすことがある。この製品にばく露されることで、既に存在する皮膚病を悪化させることがある。
- ▶ 一般的に、粘性が高く揮発性が低い物質(油類および油脂類)の場合、嘔吐を誘導する必要はない。
- ▶ 誤って皮膚に高圧注射をした場合、切開、洗浄および／または創傷清浄の必要があるか検査すること。

注記:

一見重症に見えない怪我でも、数時間以内に広範囲の皮下組織壊死を伴う組織の腫脹、変色、激痛を引き起こすことがある。
製品が組織面に沿って身体の広範囲に移動することがある。

セクション5 火災時の措置

消火剤

- ▶ 泡沫
- ▶ 乾燥化学粉末
- ▶ BCF (規制されていない場合)
- ▶ 二酸化炭素
- ▶ 水スプレーまたは霧 - 大規模火災時のみ

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。
--------------	---

消火活動に関する情報

特有の消火方法	▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 ▶ 呼吸装置および保護手袋を着用すること。 ▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。 ▶ 水の微細噴霧を利用し、鎮火および火災現場周辺の冷却に努めること。
火災及び爆発の危険性	▶ 可燃性である。 ▶ 熱または炎へのばく露による火災の危険性は低い。 ▶ 加熱により、容器の激しい破裂を伴う膨張や分解が生じることがある。 ▶ 燃焼時に分解し、一酸化炭素 (CO) の毒性ガスを発生することがある。 燃焼生成物: 一酸化炭素 (CO) 二酸化炭素 (CO2) アクロレイン 金属酸化物 有機物の燃焼特有の、その他の熱分解生成物 有毒ガスを放出することがある。 腐食性ガスを放出することがある。 倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置

セクション 8 参照

環境に対する注意事項

セクション 12 参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	漏出時スリップ注意。 ▶ 直ちに全ての漏出物を除去すること。 ▶ 皮膚および目との接触を避けること。 ▶ 不浸透性の手袋および安全メガネを着用すること。 ▶ 拭い取ること／こすり取ること。
大規模漏出の場合	▶ 現場から人員を退かせ、風上へ移動させること。 ▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 ▶ 呼吸装置および保護手袋を着用すること。 ▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。 漏出時スリップ注意。

個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱のための予防措置

安全取扱注意事項	▶ 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。 ▶ ばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。 ▶ 換気の良い場所で使用すること。 ▶ 窪地および排水だめでの濃縮を避けること。
他の情報	▶ 元の容器のまま保管すること。 ▶ 容器を完全に密封して保管すること。 ▶ 禁煙。裸火または発火源となるものの使用禁止。 ▶ 換気の良い冷乾所に保管すること。

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	▶ 金属缶またはドラム缶 ▶ 製造者が推奨する容器を使用すること。
---------	---

	すべての容器に明確なラベルが貼り付けられていることおよび漏れがないことを確認すること。
避けるべき保管条件	注意: 加熱した物質に水が接触すると、発泡または蒸気爆発を起こし、加熱物質の飛散により重度の熱傷を生じることがある。容器から溢れ出し、火災を引き起こすことがある。 酸化剤との反応を避けること。

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

許容濃度(OEL)

成分に関する情報

出典	成分	物質名	TWA	STEL	ピーク	注記
日本産業衛生学会:許容濃度	ニュートラル潤滑油用基油	鉱油ミスト	3 mg/m3	データ無し	データ無し	データ無し

緊急ばく露限度

成分	TEEL-1	TEEL-2	TEEL-3
ニュートラル潤滑油用基油	140 mg/m3	1,500 mg/m3	8,900 mg/m3

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
ニュートラル潤滑油用基油	2,500 mg/m3	データ無し
脂肪族モノカルボン酸 (C=7～23) 塩 (Al, Fe)	データ無し	データ無し

物質データ

ばく露管理

適切な工学的管理方法	工学的管理(設備対策)は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理(設備対策)により、通常、作業者が関与することなく、作業者を効果的に保護することができる。 工学的管理(設備対策)の基本: 工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。 放出源の密閉および／または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。 雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。
個人保護措置	    
眼/顔面の保護	すべての容器に明確なラベルが貼り付けられていることおよび漏れがないことを確認すること。 ケミカルゴーグル。 コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収・濃縮することがある。レンズの装用および使用制限を明記した方針文書を作業の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズを取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと。レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59], [AS/NZS 1336 またはその他の国家規格]
皮膚の保護	以下の手の保護具を参照してください。
手/足の保護	ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋を着用すること。 ゴム製などの安全靴または安全長靴を着用すること。
身体の保護	以下の他の保護具を参照してください。
他の保護	防護用密閉服(つなぎ型) 塩化ビニル製エプロン 保護クリーム 皮膚洗浄クリーム 洗眼用設備

呼吸用保護具

A-P タイプフィルタ (十分な容量を有するもの)

呼吸ゾーンでのガス／粒子の濃度が「暴露基準」(またはES)に達するか、それを上回る場合、呼吸器保護が必要となる。
必要とされる保護の度合いは面体およびフィルターの等級によって異なり、保護の種類はフィルターのタイプにより異なる。

防護係数	ハーフフェイス呼吸器	フルフェイス呼吸器	電動ファン付き呼吸器
10 x ES	A-AUS P2	-	A-PAPR-AUS P2
50 x ES	-	A-AUS P2	-
100 x ES	-	A-2 P2	A-PAPR-2 P2 ^

^ハーフフェイス

緊急事態時に現場に進入する場合、または酸素濃度や蒸気濃度が不明なエリアでは、カートリッジ式呼吸器用保護具を使用しないこと。カートリッジ式呼吸器用保護具を着用しているにも関わらず、なんらかの臭いを察知した場合は、直ちにその汚染区域から退去すること。臭いを察知した場合、その呼吸器用保護具が適切に機能していない、蒸気濃度が非常に高い、または、保護具が着用者に合っていないことが考えられる。このようにカートリッジ式呼吸器用保護具の使用には制限があるため、適切な状況においてのみ使用が認められている。

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	データ無し		
物理的状态	非流動性ペースト	比重 (水 = 1)	0.912
臭い	無臭	n-オクタノール/水 分配係数	データ無し
臭気閾値	データ無し	自然発火温度 (°C)	データ無し
pH (製品)	該当しない	熱分解温度	データ無し
融点 / 凝固点 (°C)	112-137	粘度 (cSt)	データ無し
沸点/沸騰範囲(°C)	>450	分子量 (g/mol)	該当しない
引火点 (°C)	>260	味	データ無し
蒸発速度	データ無し	爆発性	データ無し
引火性	該当しない	酸化作用	データ無し
爆発範囲-上限(%)	データ無し	表面張力 (dyn/cm or mN/m)	データ無し
爆発範囲-下限(%)	データ無し	揮発成分 (%vol)	データ無し
蒸気圧 (kPa)	データ無し	ガスグループ	データ無し
水溶性	混ざらない	溶液のpH (%)	該当しない
蒸気密度 (大気 = 1)	データ無し	VOC g/L	データ無し
ナノフォーム溶解度	データ無し	ナノフォーム粒子特性	データ無し
粒子サイズ	データ無し		

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	▶ 混触危険性物質が存在する。 ▶ 製品は安定していると考えられる。 ▶ 危険な重合反応は起こらないと考えられる。
危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11 有害性情報

毒物学的影響に関する情報

吸入した場合	本物質は、吸入により、(動物モデルを用いたEC指令の分類に基づく) 有害な健康影響を及ぼす物質または気道刺激性物質とは考えられていない。それでもなお、動物への少なくとも1つの他経路からのばく露により、全身性健康悪影響が確認されており、作業環境においては、適正衛生規範 (GHP) に従いばく露を最小限に抑え、適切な管理策を講じるべきである。不揮発性であるため、有害性を有するとは通常考えられていない。 油の飛沫またはエアゾールを吸入すると、不快感が生じ、肺に化学的炎症が生じることがある。
--------	--

Apiezon T Grease (M&I Apiezon T Grease.)

飲み込んだ場合	本物質を誤って経口摂取した場合、身体に害を及ぼすことがある。 ベンゼン環を持たないアミンは、飲み込むと消化管を通して体内に吸収される。腐食性作用により胃腸器官全体に障害を生じることがある。これらのアミンは、肝臓、腎臓および腸の粘膜を通して酵素分解により除去される。
皮膚に付着した場合	反復ばく露により、通常の使用条件下でも、皮膚のひび割れ、剥離または乾燥が生じることがある。 本物質は、一部の人に対して皮膚の炎症を引き起こす可能性があることが認められている。 脂肪または油と混和し、非アレルギー性接触皮膚炎と呼ばれる皮膚反応を引き起こし、皮膚が脱脂されることがある。EC指令に記述されるような刺激性接触皮膚炎が起こることはあまりない。 揮発性アミンの蒸気は、皮膚に刺激を与え皮膚炎を引き起こす。直接皮膚に接触すると熱傷をすることがある。経皮吸収により、経口した際と同じ作用が現われ、死に至ることがある。皮膚の白色化、発赤および膨疹が見られることがある。 開放創、擦り傷または炎症がある場合は、皮膚への接触を避けること。 皮膚疾患がある場合、症状を悪化させることがある。 切創、擦り傷または病変部などを通じて血流に侵入すると、悪影響を及ぼす全身性疾患を引き起こすことがある。使用前に皮膚を検査し、あらゆる外傷を適切に保護しておくこと。
眼に入った場合	本物質は、ヒトに対して眼刺激性および眼に対する損傷性を引き起こす可能性があることが認められている。 揮発性アミンの蒸気は目を刺激し、過剰流涙、結膜炎および軽度の角膜の腫れを引き起こし、光の回りに輪が見えることがある。症状は一時的なものであり数時間でおさまるが、車の運転など技術を要する作業の効率に支障をきたすことがある。液体の揮発性アミンは、眼に入ると眼障害を引き起こすことがあり、質量が軽いものについては、永久的な障害を引き起こすことがある。
慢性毒性	反復または長期的な職業ばく露により物質が体内に蓄積し、その結果身体に害を及ぼすことがある。 皮膚との長期または反復的接触により脱脂が起こり、乾燥、ひび割れ、および皮膚炎を引き起こすことがある。 油は、皮膚に接触または吸入されることがある。長期間のばく露は、湿疹、毛包炎、顔面色素沈着、足裏イボを引き起こすことがある。全身への影響があるが、長期間のばく露は、肺の瘢痕化を増加することがある。

Apiezon T Grease (M&I Apiezon T Grease.)	毒性	刺激性
	Dermal (None) LD50: >2000 mg/kg ^[2]	データ無し
	Oral (None) LD50: >2000 mg/kg ^[2]	
ニュートラル潤滑油用基油	毒性	刺激性
	オーラル(マウス) LD50; 22000 mg/kg ^[2]	Eye (rabbit): 500 mg moderate
	吸入(ラット) LC50; 2062 ppm4h ^[2]	Skin (rabbit): 100 mg/24h mild
脂肪酸モノカルボン酸 (C=7~23) 塩 (Al, Fe)	毒性	刺激性
	経口(ラット) LD50; 5000 mg/kg ^[1]	皮膚: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
	経皮(ウサギ) LD50: >2000 mg/kg ^[1]	眼: 有害作用は認められない(刺激性なし) ^[1]
凡例:	1. 欧州ECHA登録物質 - 急性毒性 - から得られた値。2. *の値は製造者のSDSから得られた値。特に注記のないデータはRTECSから抽出した値。	

ニュートラル潤滑油用基油	[潤滑系の油]の区分に含まれる化学物質は、製造過程および物理化学的観点の両方で結びつけられている。特定の蒸留油における潜在毒性は、加工・処理の程度または範囲に反比例する。なぜなら、 - これらの化学物質による悪影響は、望ましくない成分と関連する。 - 望ましくない成分の量は、処理の程度と反比例する。 - 処理の程度または範囲が同じである蒸留油は、類似の毒性を有する。 [残油系の油]における潜在毒性は、処理の程度とは無関係である。 - 蒸留油の生殖および発育毒性は、処理の程度と反比例する。 未精製および軽度精製蒸留油は、望ましくない成分を最大量含んでおり、炭化水素分子の種類が最も多く、極めて高い発がん性および遺伝子変異作用を示した。高度精製蒸留油および厳密に精製された蒸留油は、未精製および軽度精製蒸留油から望ましくない成分を除去または変換させて製造している。高度精製蒸留油および厳密に精製された蒸留油は、未精製および軽度精製蒸留油に比べ、炭化水素分子の種類が少なく、人畜毒性も極めて低い値を示した。残油による遺伝子変異と発がん性作用の検査結果は陰性を示し、その分子の大きさから生物活性物質または生物学的利用能は欠如しているという考えを立証した。 潤滑系の油は、毒性試験で一貫して低い急性毒性を示している。数多くの試験により、潤滑系の油の変異原性および発がん性は、3~7環式芳香族化合物(PAC)含有量とDMSO抽出物濃度(例、IP346試験)と相関性を持ち、これら二つの特性は、処理の程度・状態と直接関係している。
脂肪酸モノカルボン酸 (C=7~23) 塩 (Al, Fe)	文献調査では、有意な急性毒性データは確認されていない。 脂肪酸塩の急性毒性は低い。皮膚や眼に対する刺激性は、鎖の長さにより異なる。皮膚からは吸収されにくい。皮膚感作性は有しない。 脂肪酸およびその塩の毒性は低いと考えられる。また、突然変異、遺伝子損傷またはがんを引き起こすとは考えられておらず、生殖毒性や発生毒性も有しない。脂肪酸塩を含有する洗剤製品を誤って飲み込んだ際に、重大な健康影響が生じるとは考えられていない。

急性毒性	✗	発がん性	✗
皮膚腐食性／刺激性	✗	生殖毒性	✗
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	✓	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	✗

呼吸器感作性又は皮膚感作性	×	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	×
生殖細胞変異原性	×	誤えん有害性	×

凡例: × - データ利用不可または、区分に該当しない
✓ - 分類済み

内分泌かく乱特性

データ無し

セクション12 環境影響情報

生態毒性

Apiezon T Grease (M&I Apiezon T Grease.)	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
ニュートラル潤滑油用基油	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
	EC50	48h	甲殻類	0.016-0.027mg/L	4
	EC50(ECx)	48h	甲殻類	0.016-0.027mg/L	4
	LC50	96h	魚	>100mg/L	4
脂肪酸モノカルボン酸 (C=7~23) 塩 (Al, Fe)	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
凡例: 1. IUCLID 毒性データ 2. 欧州ECHA登録物質 - 生態毒性情報 - 水生毒性 3. EPIWIN Suite V3.12 (QSAR) - 水生毒性データ (予測) 4. 米国環境保護庁, Ecotox データベース - 水生毒性データ 5. ECETOC 水生環境有害性評価データ 6. NITE (日本) - 生物濃縮性データ 7. METI (日本) - 生物濃縮性データ 8. ベンダーデータ から抽出					

分子内に親水性の部分と疎水性の部分とを併せ持つため、界面活性剤のオクタノール／水分配係数を容易に決定することはできない。従って界面活性剤は界面に蓄積する傾向があり、いずれかの液相へ抽出されることはない。その結果、界面活性剤の移動(例: 水から魚肉内への移動)速度は低いと考えられる。この点において、生物易分解性の界面活性剤は、生体内蓄積の過程で急速に代謝されると考えられる。OECDの専門家グループはこの点を強調し、生物易分解性の化学品に限り、生体内蓄積を生じる可能性があるとは考えられないと述べている。

魚類における生物濃縮の可能性を評価するために、数種類の陰イオン界面活性剤および非イオン界面活性剤が調査され、1から350lに及ぶBCF値 (BCF＝生物濃縮係数) が確認された。同数値は、放射標識法を使用して得られた絶対最大値である。

これらの一連の研究において大規模な酸化的代謝が見られ、結果的に胆嚢内の放射能が最も高かった。これは肝臓での親化合物の変換および代謝化合物の胆汁内排泄を示しており、つまり「実際の」生物濃縮は上記の値より低い。これを修正すると、親化合物の「実際の」BCF値は、上記の値に比べ格段低くなり、「実際の」BCF値<100となると予測される。

従って、EU指令において「環境危険性」の有無を決定するために使用されている通常のデータは、界面活性剤の使用が環境上受け入れられるかどうかという点とほとんど関連性がない。

アルミニウム及びその化合物及び塩について:

環境中運命 - 元素として、アルミニウムは環境中で分解されないが、さまざまな沈殿または配位子交換反応を起こす可能性がある。化合物中のアルミニウムは、酸化状態が1種類 (+3) しかないため、環境条件下では酸化還元反応を起こさない。アルミニウムは、環境中に存在するさまざまな配位子 (フルボ酸やフミン酸など) と錯体を形成することがある。環境中のアルミニウムの溶解度は、存在する配位子とpHに依存する。

大気中運命: 大気質基準: 該当なし。

水生運命: 水和したアルミニウムイオンは加水分解される。水中のアルミニウムのスペシエーションはpHに依存する。水和した3価のアルミニウムイオンは、4未満のpHレベルでの主な形態である。pH5と6の間では、主な加水分解生成物は、Al(OH)2+ および Al(OH)2+であるが、pH5.2から8.8の間では、固体のAl(OH)3が最も多く見られる。可溶性種 Al(OH)4- は、pH 9以上で優勢な種であり、pH 10以上で存在する唯一の種である。高分子水酸化アルミニウムは、pH 4.7~10.5で見られ、アモルファスAl(OH)3のコロイド粒子に変質されるまでサイズが大きくなり、酸性水中で結晶化してギブサイトとなる。十分な量のシリカが存在する場合、アルミニウムは結晶化が不十分な粘土鉱物種として沈殿する。ヒドロキシアルミニウム化合物は、溶液中で酸と塩基の両方として機能する。この特性のため、水酸化アルミニウムは緩衝液として機能し、4~5の狭いpH範囲内でのpH変化に抵抗することができる。高分子アルミニウム種は、環境中でゆっくりと反応する。アルミニウムは、酸性環境でフッ化物物に対して強い引力を有する。pH 5~6の範囲内で、アルミニウムはリン酸塩と錯体を形成し、溶液から除去される。これにより、地表水中の栄養状態が枯渇する可能性がある。

陸生運命: 土壌 - 粘土の土壌は、粘土表面のアルミニウム飽和度に応じて、可溶性アルミニウムのシンクまたはソースとして機能する場合がある。土壌ガイドライン: 該当なし。植物 - 植物種と同じ種の栽培品種とでは、アルミニウムを吸収して地上部分に移動させる能力がかなり異なる。茶葉には非常に高濃度のアルミニウムが含まれている可能性があり、古い葉では5,000 mg/kgを超えることがある。高レベルのアルミニウムを含む可能性のある他の植物には、ヒカゲノカズラ類(マンネンシギまたはクリーピングシダーとしても知らる)、いくつかのシダ、ハインキ(ハインキ科)、およびオリテス(ヤマモガシ科)が含まれます。アルミニウムはしばしば根組織に取り込まれ、濃縮される。亜高山帯の生態系では、ダグラスファーの大きな根のバイオマスがアルミニウムを吸収して固定し、地上組織への大量の蓄積を防いでいる。アルミニウムが根の食用作物や葉物野菜にどの程度取り込まれているかは明らかになっていない。

下水道または水路に排出しないこと。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壌	残留性: 大気
	すべての成分のデータ無し	すべての成分のデータ無し

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
	すべての成分のデータ無し

土壌中の移動性

成分	移動性
	すべての成分のデータ無し

内分泌かく乱特性

データ無し

その他の有害影響

このSDS内の1つあるいは複数の成分が、オゾン層破壊および/または光化学オゾン生成を引き起こす可能性がある。

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

製品／容器／包装の廃棄方法	- 器具の洗浄に用いた洗浄水は排水路に流入させないこと。 - 器具の洗浄に用いた洗浄水は、排出する前にすべて回収し適切な処理を施す必要がある。 - 下水道への排出は国内法規制の対象となることがあるため、常に、その国内法規制の要件を考慮しなければならない。 - 不明な点は、担当当局に問い合わせること。 - 製造者にリサイクルの可否を問い合わせ、可能な場合はリサイクルすること。 - 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市町村に問い合わせること。 - 残留物は、認可を受けた処分場で焼却または埋立処分すること。 - 容器は、可能であれば再生利用、もしくは認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。
---------------	--

セクション14 輸送上の注意

要求されるラベル

海洋汚染物質	該当しない
--------	-------

陸上輸送 (UN): 危険物輸送規制対象外

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR): 危険物輸送規制対象外

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee): 危険物輸送規制対象外

MARPOL 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

該当しない

MARPOL 附属書 V 及び IMSBC コードによるばら積み輸送

製品名	グループ
ニュートラル潤滑油用基油	データ無し
脂肪族モノカルボン酸 (C=7~23) 塩 (Al, Fe)	データ無し

ICG コードによるばら積み輸送

製品名	輸送タイプ
ニュートラル潤滑油用基油	データ無し
脂肪酸モノカルボン酸 (C=7~23) 塩 (Al, Fe)	データ無し

セクション15 適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

ニュートラル潤滑油用基油 に関する適用法令	
Japan Occupational Exposure Limits - Carcinogens ケミカル フットプリント プロジェクト - 高懸念化学物質リスト 国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 - グループ 1: ヒトに対する発がん性がある	日本 労働安全衛生法 日本 政府によるGHS分類 日本 許容濃度等 日本安衛法: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
脂肪酸モノカルボン酸(C=7~23)塩 (Al, Fe) に関する適用法令	
日本 労働安全衛生法	日本 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 - 既存化学物質 / 新規公示化学物質

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 文書の交付		
	政令名称	政令番号	
	鉱油	別表第9の168	
	名称等を表示すべき危険物及び有害物		
	政令名称	政令番号	
	鉱油	別表第9の168	
	製造の許可を受けるべき有害物		
	政令名称	政令番号	
	該当しない	該当しない	
	関連する法令・条例		
	危険物 - 酸化性の物	該当しない	
	危険物 - 引火性の物	該当しない	
	有機溶剤	該当しない	
	特定化学物質	該当しない	
化管法 -	分類	政令名称	政令番号
	該当しない	該当しない	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない		
化審法	優先評価化学物質	該当しない	
	第1種特定化学物質	該当しない	
	第2種特定化学物質	該当しない	
	監視化学物質	該当しない	
	一般化学物質	脂肪酸モノカルボン酸(C＝7～23)塩(Al, Fe)	

国別インベントリ状況

国別インベントリ	状況
オーストラリア - AIIC / オーストラリア非工業用	Yes
カナダ - DSL	Yes
カナダ - NDSL	No (ニュートラル潤滑油用基油; 脂肪酸モノカルボン酸(C=7~23) 塩 (Al, Fe))
中国 - IECSC	Yes
欧州 - EINEC / ELINCS / NLP	Yes
日本 - ENCS	No (ニュートラル潤滑油用基油)
韓国 - KECI	Yes

国別インベントリ	状況
ニュージーランド - NZIoC	Yes
フィリピン - PICCS	Yes
米国 - TSCA	Yes
台湾 - TCSI	Yes
メキシコ - INSQ	Yes
ベトナム - NCI	Yes
ロシア - FBEPH	Yes
凡例:	Yes = 全ての成分がインベントリに収載されている いいえ = 1つ以上のCASに記載されている成分が在庫にありません。これらの成分は免除されるか、登録が必要になります。

セクション16 その他の情報

改訂日	23/07/2021
最初の発行日	01/11/2009

SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
9.1.2.1	08/05/2021	急性有害性(眼), 急性有害性(吸入), 急性有害性(皮膚), 急性有害性(飲み込んだ場合), 医師に対する特別な注意事項, 外観, 慢性有害性, 分類, 廃棄, 工学的管理, 環境, ばく露基準, 消火方法(消火剤), 消火方法(火災/爆発の危険), 消火方法(消防非互換性), 応急措置(吸入), 取り扱い, 成分, 安定性及び反応性, 個人用保護具(その他), 個人用保護具(眼), 個人用保護具(手/足), 物理的性質, 漏出(大規模), 漏出(小規模), 保管(混触危険性), 保管(条件), 保管(適切な容器), 同義語, 毒性・刺激性(その他), 輸送, 輸送に関する情報, 用途, 品名
9.1.3.1	13/05/2021	規制の変更
9.1.4.1	27/05/2021	規制の変更
9.1.4.2	30/05/2021	テンプレートの変更
9.1.4.3	04/06/2021	テンプレートの変更
9.1.4.4	05/06/2021	テンプレートの変更
9.1.4.5	09/06/2021	テンプレートの変更
9.1.4.6	11/06/2021	テンプレートの変更
9.1.4.7	15/06/2021	テンプレートの変更
9.1.4.8	05/07/2021	テンプレートの変更
9.1.5.8	22/07/2021	規制の変更
10.1.5.8	23/07/2021	急性有害性(眼), 急性有害性(吸入), 急性有害性(皮膚), 急性有害性(飲み込んだ場合), 外観, 分類, 環境, 個人用保護具(眼), 個人用保護具(手/足), 物理的性質, 保管(条件)
10.1.5.9	01/08/2021	テンプレートの変更
10.1.6.9	02/08/2021	規制の変更
10.1.7.9	05/08/2021	規制の変更
10.1.8.9	09/08/2021	規制の変更
10.1.8.10	29/08/2021	テンプレートの変更
10.1.9.10	13/09/2021	規制の変更

他の情報

製品および各成分の分類は、公式かつ信頼性の高い情報源や、参考文献を使用したChemwatch分類委員会独自の評価によるものです。

SDSはハザードコミュニケーションのツールであり、リスクアセスメントの一助として使用されるべきである。掲載されているハザードが、作業場やその他の環境においてリスクをもたらすか否かは、様々な要素により決定される。暴露シナリオを参照することにより、リスクが特定されることもある。使用規模、使用頻度および現行の設備管理も考慮しなければならない。

定義および略語

- ▶ PC-TWA: 時間加重平均許容濃度
- ▶ PC-STEL: 短時間ばく露限界許容濃度
- ▶ IARC: 国際がん研究機関
- ▶ ACGIH: 米国産業衛生専門家会議
- ▶ STEL: 短時間ばく露限界値
- ▶ TEEL: 一時的緊急ばく露限度

Apiezon T Grease (M&I Apiezon T Grease.)

- ▶ IDLH: 脱出限界濃度
- ▶ ES: ばく露基準
- ▶ OSF: 臭気安全係数
- ▶ NOAEL :無毒性量
- ▶ LOAEL: 最小毒性量
- ▶ TLV: 許容濃度
- ▶ LOD: 検出限界値
- ▶ OTV: 臭気検知閾値
- ▶ BCF: 生物濃縮係数
- ▶ BEI: 生物学的ばく露指標
- ▶ AIIC: オーストラリア工業化学品インベントリ
- ▶ DSL: 国内物質リスト
- ▶ NDSL: 非国内物質リスト
- ▶ IECSC: 中国現有化学物質名録
- ▶ EINECS: 欧州既存商業化学物質インベントリ
- ▶ ELINCS: 欧州届出化学物質リスト
- ▶ NLP: もはやポリマーとみなされない物質のリスト
- ▶ ENCS: E既存化学物質 / 新規公示化学物質
- ▶ KECI: 韓国既存化学物質目録
- ▶ NZIoC: ニュージーランド化学物質インベントリ
- ▶ PICCS: フィリピン化学品および化学物質インベントリ
- ▶ TSCA: 有害物質規制法
- ▶ TCSI: 台湾既存化学物質インベントリ
- ▶ INSQ: 国家化学物質インベントリー
- ▶ NCI: 国家化学品インベントリ
- ▶ FBEPH: ロシア 潜在的に有害性のある化学物質及び生物学的物質リスト

当データシートは著作権により保護されており、著作権法により許可される個人的な研究、リサーチ、批評もしくは論評等公正な目的に使用する以外には、ケムウォッチ (TEL: +61 3 9572 4700)からの書面による許可が無い限り、いかなる部分の複製も方法を問わず禁じられています。